

# 平成 20 年度 港南区生活支援センター事業報告書

横浜市では各区に生活支援センターが整備される中、港南区生活支援センターは来館者、サービス利用者がともに増加した。

相談支援事業においては本人同意の下、個別支援計画書を用いた相談支援を始めた。また、地域活動支援センター事業では、利用者が安心して過ごす事が出来るよう、全ての利用者へ「施設利用に関する同意書」を記入していただくこととした。加えて、20年度は新規事業として、家族 SST 講座（地域支援事業）を行い、地域の人々と障害に対する理解を共有する事が出来た。

以下、20年度の報告からみえてくる事業の評価と課題を整理し、次年度もさらに発展させていきたい。

## 相談支援

地域の身近な相談窓口として、福祉に関わる幅広い相談に応じ、必要な情報提供や助言を行ってきた。そして面接・電話・訪問などを通じ、利用者の生活及び社会的問題の解決に向けた支援に取り組んでいる。

### < 面接 >

- ・ 利用者の日常生活における様々な相談(対人関係・生活全般など)に応じている。
- ・ 利用登録の見直しと同意書を得る事で、声を発しない人のニーズを掘り起こすきっかけとなった。
- ・ 嘱託医相談はセカンドオピニオンとしての役割を果たし、また家族支援にも繋がっている。今年度は嘱託医の人数が増えたことにより、相談者側の選択が広がった。
- ・ 地域の関係機関からジョブコーチを招き、就労に関する相談を行っている。相談の特徴としては、就労に向けての準備や心構えなどが多い。

### < 電話 >

- ・ 区内外を問わず地域で生活する方々に安心感を与える役割を果たしている。
- ・ 相談内容は生活や対人関係に関するものが多い。
- ・ 第一次相談機関として幅広く地域の方からの相談に応じている。今後は、より専門領域、及び複雑多岐にわたる相談に対応できるための知識と柔軟性が求められる。

### < 訪問・同行・その他 >

- ・ 関係機関との連携により、ケースカンファレンスの参加機会が増えてきた。今後はひきこもりなど社会資源につながない人、及び家族支援も併せてどうアプローチしていくかが課題である。
- ・ 訪問・同行の件数は増えてはいるが十分とはいえない。今後は利用者への周知を積極的に行っていく。そのためには勤務の調整を図り、職員が外に出向く体制作りが求められる。

### < 個別支援 >

- ・ 個別支援計画書を利用者の同意を得て作成し、ニーズに応じた支援を行っている。まだ個別対応が中心で、全職員が統一した対応をとるまでには至っていない。今のところ件数は少ないが、今後は積極的な働きかけにより増やしていきたい。
- ・ 関係機関とケースについて連携を行っているが情報の共有にとどまっている。今後は関係機関との連携・調整を強化しチームアプローチをしながら支援方針の統一を図っていきたい。

## 地域活動支援センター

社会経験を十分に得られなかった方が社会参加を目的とするための場の提供、及び利用者ニーズに合わせた各種プログラム・イベントを企画・実施してきた。

### 居場所の提供

- ・ オープンスペースを開放し、利用者が常に気持ちよく過ごせる憩いの場を提供している。最近では利用者層の広がりにより、支えあいの意識が高まるなど家族的な空間となっている。
- ・ 利用者が安心して過ごす事が出来る居場所の提供につとめ、未登録者にも施設利用に関する説明を充分に行い、全ての利用者へ「施設利用に関する同意書」を記入していただくこととした。
- ・ 憩いの場であると同時に社会参加を促す場所である。関係機関、家族会、ボランティアの利用が定着し、利用者との交流も進んできた。

### SST（社会生活技能訓練）

- ・ 年 18 回開催。前半 6 回は外部講師を招いて行い、後半 12 回はセンター職員のみで行った。
- ・ プログラムを目的にセンターに来所する方もあり、参加人数も大幅に増えた。
- ・ 個々の目的にあわせたロールプレイを実施し、生活に生かせるきっかけとなった。

### 就労関連プログラム

#### ① 就労講座

- ・ 年 11 回開催。地域関係機関のジョブコーチによる講義のほか、障害者を雇用している企業の方や、働いている当事者による講演等を行った。
- ・ 就労に関心のある利用者や地域病院のデイケアの方々が毎回多数参加した。
- ・ 就労支援センターの職員を招き、施設利用の説明会や授産施設への見学を行った。

#### ② 就労ミーティング

- ・ 年 11 回開催。就労している利用者や就職活動中の利用者で集い、情報交換の場になっている。
- ・ 就労に関する悩みや近況について話し合い、就労に対するモチベーションをあげる機会にもなっている。

### パソコン教室

- ・ 地域ボランティアによるパソコン教室を毎月開催している。
- ・ 初心者にもわかりやすい指導で好評を得ており、3 年間継続している。

### その他

< 当センターの年間プログラム >

初詣、新年会、お花見、納涼会、クリスマス会、バスハイク年 2 回、利用者ミーティング、絵画教室、気功教室、ソフトボール交流会、コラージュ体験教室、ハンドマッサージ、ランチ会、お菓子教室ほか季節的なイベント

- ・ 季節的なイベント(納涼会、クリスマス会)の際には利用者へ企画・準備段階から積極的に参加してもらった。
- ・ 外部からもボランティアを招き、イベント・プログラムに、より多様性を持たせている(気功教室、ランチ会、お菓子教室)。
- ・ プログラム参加を通じ、他者と交流する楽しさや協力することの大切さを知る機会となっている。

## サービス提供

支援センターは地域で生活する利用者にとって生活の基本である食事・入浴・洗濯サービス等を提供している。そして、よりよい日常生活を送るための社会資源のひとつとして、適宜活用されている。

### 夕食サービス

- ・ 夕食サービス利用者の 1 日平均利用者数が増加した。これまでセンターの存在を知らなかった方にも夕食サービス利用をきっかけとして認知度が高まりつつある。
- ・ センター利用者が夕食サービスの買い物、調理をすることで個人の生活技術の向上に役立っている。
- ・ 最近の特徴としてセンターの食事を食生活の中心機能と位置付ける単身者が増加した。
- ・ 食卓を皆で囲むことにより、家庭的な雰囲気の中でコミュニケーションが図られている。

### 入浴・洗濯サービス

- ・ 入浴、洗濯サービス利用者の 1 日平均利用者数が増加した。
- ・ 衛生面を意識してもらうよう、利用者への働きかけを行った結果、入浴・洗濯サービスの利用が増えた。
- ・ 固定メンバーが定期的に利用しており、生活の一部となっている。

### インターネットサービス

- ・ インターネットサービス利用者の 1 日平均利用者数が増加した。
- ・ 必要があれば職員が手助けをしながら、就労や各種制度に関する情報の提供を行っている。
- ・ インターネットサービス利用を通じ、利用者間で教えあうなどの交流が出来てきた。

## 地域交流

家族会やボランティアグループ等関係機関との活動や施設の提供、開放などを通して交流に努めたことにより、地域関係機関とのネットワークが構築されてきた。

### 地域交流の実績

- ・ ボランティアグループ、関係機関への施設提供（作業所製品の展示販売、作業所による喫茶、ボランティアによる昼食会など）
- ・ 家族会、ボランティアグループ、関係機関への活動協力と定例会参加
- ・ 3障害の交流と活動（地域生活支援会議、区障連 等）
- ・ 港南区精神福祉関係機関との定例会（港南ネット会議、区福祉保健センターとの月例会議）
- ・ 関係機関との共同開催のイベント実施（バスハイク、港南ネット祭り、あおぞら交流会、ソフトボール、公開講座）
- ・ 地域ボランティアの積極的な受け入れ（パソコン、気功教室、おしゃべり、調理、ハンドマッサージなど）

## 家族支援

- ・ 生活支援事業として、家族 SST を全 8 回開催。家族に向けて病気への理解を深めつつ、コミュニケーションの取り方を学ぶセミナーを実施した。
- ・ うつの家族講座（芹香病院・港南区福祉保健サービス課との共催）を 4 回開催。病気の理解を深め、社会資源の紹介や家族同士の交流等を行った。
- ・ 家族会の方々が身近な憩いの場として支援センターを積極的に活用し、会員同士の交流、活動の拠点となっている。

## 当事者活動支援

- ・ 利用者による自主活動(絵画教室)を継続的に実施している。
- ・ センター内衛生面において継続的な自主活動が出てきた。利用者の所属意識とエンパワメントが引き出され始めたきっかけと考えられる。
- ・ イベントの際には企画・準備段階から利用者に参加してもらい、各自が役割を受け持つなど能力を発揮する機会となった。今後もこのような場を提供していきたい。
- ・ センター内で自治活動的な動きが出てきた。今後は外部関係機関の当事者活動を見学する機会を設けるなど、より発展させていきたい。

## その他

- ・ 障害者自立支援法による障害程度区分認定審査会参加
- ・ 福祉職、看護職の実習受け入れ

## 利用実績

	平成 19 年度	平成 20 年度
本人 来館者数	31 人 (1 日)	37 人 (1 日)
電話、面接、 面接非構造・その他	56 件 (1 日)	57 件 (1 日)
訪問・同行	12 件 (年間)	34 件 (年間)
夕食サービス	15 人 (1 日)	18 人 (1 日)

主な地域交流の実績	実施回数	参加人数
港南ネット祭り	1 回	218 人
ぼかぼか(作業所による喫茶)	20 回	509 人
With(ボランティア)カレーの日	5 回	304 人
ソフトボール交流会	8 回	47 人
生活教室との合同バスハイク	1 回	43 人
そよかぜふれあい祭り	1 回	17 人
あおぞら5施設交流会	2 回	26 人
区障連ふれあいスポーツ大会	1 回	17 人
区障連ふれあいボーリング大会	1 回	7 人
合同防災訓練	2 回	28 人

## 研修

当センターは、以下 8 名の職員を配置し、施設運営を行ってきた。内 4 名は開所時から引き続き勤務し、また 5 名は精神保健福祉士有資格者ということで、利用者、関係機関などに信頼と安心感を与えている。

他方、職員としての専門性向上をめざし、各種研修にも参加するよう努めてきた。今後もより一層の職務充実を目指し、全職員が広く研修に参加していきたい。

研修参加年月日	研修名	研修内容	参加者
平成 20 年 4 月 26 日 ～28 日	日本カウンセリング学会 第 68 回カウンセリング研修会東 京大会	社会的スキル訓練(SST) 構成的グループエンカウンター 交流分析	職員 E
平成 20 年 6 月 5 日	新人研修	A 型・B 型センターの違いや内容につ いて	職員 F 職員 G
平成 20 年 7 月 19 日	東京コラーージュ療法研究会 第 2 回研究会	コラーージュ作品の見方・解釈	職員 E
平成 20 年 7 月 20 日	日本カウンセリング学会 認定カウンセラー会 第 2 回相互研修会	看護・福祉カウンセリング	職員 E
平成 20 年 8 月	SST ファーストレベル	SST について講義・演習による知識技術 の習得	職員 F
平成 20 年 10 月 1 日、 3 日、9 日、14 日、 11 月 5 日、11 日	平成 20 年度神奈川県相談支 援従事者初任者研修	相談支援専門員としての基本 ケアマネジメントの展開 他 演習 他	職員 D 職員 F
平成 20 年 10 月 8 日	関東ブロック研修	今現場はどうなっているのか？ 実践から学び明日につなげよう	職員 B
平成 20 年 10 月 24 日	横浜市生活支援センター 連絡会電話相談研修	電話相談の課題・グループ討議	職員 C 職員 G
平成 20 年 11 月 3 日	横浜市指定管理者研修	個人情報保護説明会及び人権啓発	所長 A
平成 20 年 11 月 6 日	横浜市生活支援センター 連絡会退院促進支援事業研修	退院促進事業のしくみ・報告	職員 C
平成 20 年 11 月 19 日	防火安全研修	疑似体験防災訓練	所長 A
平成 21 年 1 月 17 日、 31 日、2 月 14 日、28 日、3 月 28 日	SST 普及協会南関東支部 東京 SST 経験交流会主催 SST 連続講座	① 行動理論に基づいたアセスメント ② ドライランをライブでどうアセスメントす るか 他	職員 E
平成 21 年 1 月 26 日	浜家連 D ブロック・普及啓発事 業研修	うつと統合失調症	所長 A
平成 21 年 2 月 18 日	こころの電話相談関係機 連絡会	広汎性発達障害の理解と対応	職員 C
平成 21 年 3 月 14 日、 15 日	精神障害者地域生活支援セン ター 全国フォーラム	これからの相談支援を考える	職員 B

## 職務分掌

氏名	取得資格	経験年数 (*1)	担当業務
所長A (常勤嘱託)	社会福祉主事	7年	施設運営事務全般、職員勤務表作成 防災管理責任者、運営連絡会 評議員会 等
職員B (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員 社会福祉士	7年	金銭出納管理、入浴・洗濯・インターネットサービス会計、 備品/リサイクル品・落し物管理、就労関連事業、 防災管理 地域ネットワーク、障害程度区分審査会、運営連絡会
職員C (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員	7年	実習生担当、統計、夕食サービス会計、 夕食サービス担当職員分担表作成、 ホームページ管理、地域ネットワーク
職員D (常勤)	精神保健福祉士 相談支援専門員	7年	統計、就労関連事業、衛生業務、余暇支援 ホームページ管理、地域ネットワーク
職員E (非常勤)	社会福祉主事	5年	社会生活技能訓練、衛生業務、 消耗品管理、余暇支援
職員F (非常勤)	相談支援専門員	2年	社会生活技能訓練、備品/リサイクル品・落し物管理、 消耗品管理、その他サービス関係、地域ネットワーク 余暇支援、ホームページ管理
職員G (非常勤)	精神保健福祉士 社会福祉士	11ヶ月	社会生活技能訓練、衛生業務、余暇支援、 地域ネットワーク
職員H (アルバイト)	精神保健福祉士	6ヶ月	消耗品管理、余暇支援

(\*1) 経験年数は、平成21年3月31日時点

## 自己評価

計画に基づく事業実施を行い、合格点に達しているものと認識しております。

相談支援事業、地域活動支援センター事業はもとより、今年度は新たに始まった市の地域支援事業(家族向け)を実施したり、区や病院と共催で講座を開催するなど、地域に向けて障害理解の発信に努めることが出来たと思われれます。次年度は本体である施設での相談支援に更に力を入れながら、一方では訪問、同行などの地域へ出向いていく体制づくりに努めていきたいと考えております。

平成 20 年度

港南区生活支援センター指定管理料決算書

自平成 20 年 4 月 1 日 至平成 21 年 3 月 31 日

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
人 件 費	( 40,408,000 )	( 38,514,521 )	( 1,893,479 )	
施設管理費	( 6,098,000 )	( 6,322,435 )	( △ 224,435 )	
光熱水費	3,200,000	3,430,500	△ 230,500	ガス・電気・水道
庁舎管理	2,898,000	2,891,935	6,065	
事業運営費	( 3,106,000 )	( 2,605,799 )	( 500,201 )	
旅費交通費	140,000	182,160	△ 42,160	
講師謝金	180,000	168,000	12,000	
消耗品費	1,154,000	931,032	222,968	新聞、文具他
印刷製本費	200,000	115,836	84,164	
通信費	200,000	148,073	51,927	切手代、振込手数料他
電話料金	170,000	215,302	△ 45,302	
賃借料	350,000	420,660	△ 70,660	コピーリース料他
備品等購入費	200,000	68,250	131,750	
会議費	10,000	5,599	4,401	
研修費	100,000	17,500	82,500	
設備修理費	150,000	73,387	76,613	
諸会費	60,000	70,000	△10,000	
施設賠償保険	192,000	190,000	2,000	全精社協総合補償制度
入浴サービス等実費徴収額 光熱水費充当分	(△ 156,000 )	(△ 172,130 )	( 16,130 )	
合 計	49,456,000	47,270,625	2,185,375	

社会福祉法人新生会